

地質ニュース

昭和 43 年 2 月

第 162 号

1968

解 説	ポーフィリーカップー鉱床 ①	石原 舜 三	1
	最近のボーリング循環水について	加藤 完	14
トピックス	石油開発公団の発足	星野 一 男	18
講 座	水銀の話 ③	山田 敬 一	7
	水井戸の話 ④ 井戸の寿命	村下 敏 夫	26
海外事情	バンコク エカフエ事務局通信 ②	沢田 秀 穂	28
	アンデス銅資源地帯空中予察調査 ③	松野 久 也	39
	続サウジアラビア紀行 ② 風雲の中東地域	小村 幸 二 郎	50
	学会 掲 示 板		17
	地学と切手	堀内 恵 彦	25

編 集 地 質 調 査 所

表紙の写真

向斜構造

宮城県牡鹿半島

リアス式海岸の美しさもさることながら、牡鹿半島はすばらしくみごとな褶曲が発達している。石巻港から金華山行の船に乗り海蝕崖を双眼鏡でねらうと、幾つかのみごとな褶曲を見出せる。地質ニュース No. 153 の表紙に紹介した背斜構造よりも、この向斜は下位の層準（敦の浜層）のものであり、興味深いことには、それとは褶曲の形態を異にする。軸部付近の地層の見かけの厚さが翼部よりも厚くなっていることが特徴で“同型褶曲”（Similar-folds）と呼ばれるものである。岩相は砂岩と頁岩の厚層理互層（各数m厚）であり、この露頭の軸部は黒色頁岩である。写真中の人物の頭上部からは、ジュラ紀上部を示すアンモナイト（Perisphinctes）を産したが、褶曲運動の影響を受け、強く変形している。

まさに驚嘆に値する迫力ある自然の造形物である。

（正井・滝沢）

発 行 株式会社 実業公報社